

## プロジェクト名：社会科教育ソリューション事業

### ～教育問題に関してもコンサルテーションからソリューションへ～

#### 背景・目的

学校が抱えている社会科教育に関する諸問題に対して解決方法を提示します。

現場に向かうと、いろいろな悩みを先生方から聞きます。これらの悩みを何とか解決してあげたい。大学として何かできないだろうか？このプロジェクトは、ここから始まりました。単なるコンサルタントしてではなく、問題解決をめざす。大学の役割として新しい方向を模索しました。また、このプロジェクトを通してソリューションパートナーから学ぶことも多くありました。

#### 組織

本学のメンバー：石丸哲史（代表）・小川亜弥子・豊嶋啓司・黒木貴一  
福岡県内のメンバー：大江正徳（宗像地区社会科研究協議会会長）  
森芳彦（福岡市立内浜中学校校長）西邦彰（前古賀市立花見小学校校長）  
猿樂隆司（宗像市教育委員会指導主事）藤野俊明（福津市立福間小学校教諭）  
三淵康弘（福岡県教育庁南筑後教育事務所指導主事）川口克典（宗像市立河東小学校教諭）藤島俊幸（福岡教育大学附属福岡中学校教諭）

#### 特徴

- 教科教育と教科専門の大学スタッフ、教育委員会と学校現場の関係者など、各方面からの参画を要請し、コラボレーションを実現できました。
- 単なる相談に終わるのではなく、具体的な解決策を提示しました。
- Q&A集、テキスト、地図帳など「知的生産物」の構築にこだわりました。

#### 取り組み

【2005年度】 「悩みがあってもわざわざ相談するまでには至りませんね。。。」このような声を学校の先生方から聞きます。そこで、発信型ソリューション事業を企画しました。社会科教育に関して学校の先生方が抱えておられる問題や悩みを把握するために、県内全ての公立小中学校1,111校に対してアンケートを行いました。これをもとに、Q&A集を発行し、全ての学校に配布しました。また、Web上にも公開し、現在までに2,500件を超えるアクセスをいただいています。

【2006年度】 地元宗像市教育委員会との共同事業として、次の3つのプロジェクトを進行させています。

- ① 社会科だけでなく総合的な学習に活かせる副読本を制作したいという構想を市教委よりうかがいました。そこで、宗像市市立小中学校向けの副読本『探検！発見！むなかたーふるさとの歴史ー』の編集に参加しました。
- ② この副読本をどのように授業に活用するか、社会科だけでなく、小中一貫、総合的な学習への効果的な利用方法はないか、相談を受けました。そこで、この点を研究・開発し、この成果を『探検！発見！むなかたー効果的活用へ向けた教師向けガイドブックー』にまとめ、副読本刊行後に発行しました。同時に宗像市教員に対して市教委主催の研修会にて活用方法について講義しました。
- ③ 小学校中学年の社会科では、地域学習の際に地元の地図が必要ですが、児童向けの地図はこれまで現場で使用されていませんでした。そこで、社会科学習に効果的な地図を開発し、平成19年度より市内の小学3年生全員に地図帳を配布しています。



福岡教育大学  
社会科教育ソリューション

授業の多くは、個々学習が中心になってしまい、子どもの思考よでの減り上げが十分にされていない。

社会科の問題解決学習では、「①つかむ[問題の発見]→②見つける[自力解決]→③広げる[発想]→④つなげる[多様な考えの比較・検討]→⑤まとめる[本質のまとめ]」といった段階で授業を展開する機会が多いと想います。これらの各段階が重要であることは勿論ですが、特に難しいのが、④の「つなげる」段階の確保です。社会科における「つなげる」は、単に「相互作用」を促した状態を可能にするには、学校の「学習指導要領」が示している「調べ、そして、調べたことから考える社会科」の一環の意義が顕著となるように思います。『学習指導要領』においては、さまざまな観点からそれぞれが「調べる内容」と、そこでそれぞれが調べて「分かった内容」とを明確に対応することが求められています。この行為には、自ずと、自分が「分かった内容」について他者から認識されるという行為が伴います。その認識作業においては、お互いがお互いを認めるという効果が生まれます。そして、その過程の中で、「調べる過程」が「集団の規律」へと転化していくわけです。更に、こうした「認める行為」は、「問題解決の連続・発展を促していくでしょう。

### 社会科教育ソリューション 本学ホームページの一部分



### 宗像市から発行される副読本



### 小学生向け宗像市地図の一部